

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1.5年制)		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	聴解・聴読解(中上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担当教員	福 島 香 理	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 中上級レベルの聴解力を身につける。N2合格を目指す単に試験合格のためだけでなく、進学先につながる聞くスキルを身につける。中級レベルの聞いてわかる語彙を増やす。まとまりのある内容を聞いて口頭で再現したり、正確に書き取ったりする力をつける。						
《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験(小テストを含む):70% 2. 態度/発話参加度: 10% 3. 出席:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 『日本語総まとめ聴解N2/N3』(アスク出版)、『新毎日の聞き取り50日』(凡人社)、『ニュースの日本語聴解40』(スリーエーネットワーク) 『EJU聴解・聴読解』(愛知国際学院)、『ドリル&ドリルN2,N3』(ユニコム)、『短期マスターN3』(凡人社)から抜粋、レベルアップトレーニング懲戒N2、オリジナルハンドアウト使用。						
《授業外における学習方法》 授業で聞き取れなかったところは放課後にもう一度聞くようにしてください。 普段から日本語でテレビを見たり、ラジオを聞いたりしましょう。						
《履修に当たっての留意点》 日本語の発音に慣れて、聞いてわかる言葉を増やします。聴解が苦手でも、あきらめずにがんばりましょう。今の勉強が進学先での力につながります。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション N3までの力をチェックする(1)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。	
		各コマにおける授業予定	N3復習+会話表現「ミニ会話作り」			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	N3までの力をチェックする(2)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。	
		各コマにおける授業予定	N3 まとめテスト『短期マスターN3』 ニュースの日本語(1) 毎日の聞き取り(1)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2の問題に慣れる(1)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。	
		各コマにおける授業予定	N3復習 前回の復習 ニュースの日本語(2) N2課題問題			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2の問題に慣れる(2)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。	
		各コマにおける授業予定	ニュースの日本語(3) N2 ポイント理解(1) N2 音声(「新完全マスター」チェックテスト)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2の問題に慣れる(4)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。	
		各コマにおける授業予定	ニュースの日本語(4) N2 ポイント理解(2) N2 音声(「新完全マスター」チェックテスト)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2の問題に慣れる(5)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	N2 概要理解 部分ディクテーション N2 チェックテスト(「新完全マスター」)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2の問題に慣れる(6)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	ニュースの日本語(5) N2 即時応答		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2の問題に慣れる(7)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	ニュースの日本語(6) N2 統合理解 ディクテーション		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2の問題に慣れる(7)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	ニュースの日本語(7) N2 ポイント理解		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2の問題に慣れる(8)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	ニュースの日本語(8) N2 概要理解 メモを取る		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2の問題に慣れる(9)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	N2 即時応答、縮約形を身につける ディクテーション		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2 模擬試験(1)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	総合力をチェックする。 ディクテーション		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2 模擬試験解説	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	語彙、ミスの部分、メモを取らせるところを押さえる		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2 模擬試験(2)	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	総合力をチェックする。 ディクテーション		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	N2 模擬試験	使用教材から抜粋	課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	語彙、ミスの部分、メモを取らせるところを押さえる		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1.5年制)		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	聴解・聴読解(中上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担当教員	福 嶋 香 理	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 中上級レベルの聴解力を身につける。N2合格を目指す単に試験合格のためだけでなく、進学先につながる聞くスキルを身につける。中級レベルの聞いてわかる語彙を増やす。まとまりのある内容を聞いて口頭で再現したり、正確に書き取ったりする力をつける。						
《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験(小テストを含む):70% 2. 態度/発話参加度: 10% 3. 出席:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 『日本語総まとめ聴解N2/N3』(アスク出版)、『新毎日の聞き取り50日』(凡人社)、『ニュースの日本語聴解40』(スリーエーネットワーク) 『EJU聴解・聴読解』(愛知国際学院)、『ドリル&ドリルN2,N3』(ユニコム)、『短期マスターN3』(凡人社)から抜粋、レベルアップトレーニング懲戒N2、オリジナルハンドアウト使用。						
《授業外における学習方法》 授業で聞き取れなかったところは放課後にもう一度聞くようにしてください。 普段から日本語でテレビを見たり、ラジオを聞いたりしましょう。						
《履修に当たっての留意点》 日本語の発音に慣れて、聞いてわかる言葉を増やします。聴解が苦手でも、あきらめずにがんばりましょう。今の勉強が進学先での力につながります。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	進学後に必要なノートテイキングの力をつける(1) 留学試験の問題に慣れる。	使用教材から抜粋		課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	会話表現、メモを取る。 ディクテーション 留学試験 聴解問題(1)			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	進学後に必要なノートテイキングの力をつける(2) 留学試験の問題に慣れる。	使用教材から抜粋		課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	会話表現、メモを取る。 ディクテーション 留学試験 聴解問題(2)			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	進学後に必要なノートテイキングの力をつける(3) 留学試験の問題に慣れる。	使用教材から抜粋		課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	会話表現、メモを取る。 ディクテーション 留学試験 聴読解問題(1)			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	進学後に必要なノートテイキングの力をつける(4) 留学試験の問題に慣れる。	使用教材から抜粋		課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	会話表現、メモを取る。 ディクテーション 留学試験 聴読解問題(2)			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	総復習	使用教材から抜粋		課題がある場合は事前に語彙を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	能力試験問題、留学試験問題など			